

デジタルの力で 働きやすい環境づくり

精神障がい者、知的障がい者、発達障がいの方々が社会で働くための支援をしている、社会福祉法人せせらぎ会「せせらぎハウス黒部」（以下、せせらぎという）。障害者総合支援法に基づく就労継続支援B型事業所として、企業の建材部品の組み立てや検査、施設外就労として野菜の選別や箱詰め、サイダーのラベル貼り、電鉄石田駅前のトイレ清掃などを行っています。今回は4月に新しい建物となり、利用者も職員も働きやすい環境づくりに取り組むせせらぎを紹介します。

手書きの負担を減らしたい

せせらぎでは、これまで利用者に関する日々の記録を手書きで作成していました。サービス管理責任者の川田多紀子（かわたたきこ）さんは、「利用者さん方と一緒に作業している職業指導員が一生懸命書いてくれた記録を私たちが転記していたんです。時には転記間違いもありますし、他の業務にも時間を割きたかったので、記録を1回で済ませられないかと思っていました」と話します。また、施設長代理の脇坂千絵（わきさかちえ）さんは、「福祉業界では日々の記録が必要です。段々受注する仕事が増えてきたら部品の品番も増えてきて、私たちも覚えるのが大変になってきたんです。写真に撮ったり略称でやつてみたりしましたが、記録に残していくのはすごく大変で労力のいることでした」と話します。

ます。そこで、職員の負担軽減と業務の効率化に向けて富山県の障害福祉分野のICT活用モデル事業を受け、システム開発に詳しい一般社団法人シビックテックラボと市社会福祉協議会と一緒に1年かけて独自システムを開発しました。

質の向上につながる

ホワイトボードに書いて利用者に示していた作業内容や進捗状況は、システムによってモニ



川田さん

ター画面に映し出され記録としても残るようになりました。職業指導員の中田千華（なかつか）さんは、「最初は正直ちょっと難しそうだし、タブレットに慣れていないから大丈夫かなって不安の方が大きかったのと、結構スケールが大きい話だなと思っていました。実際に導入されてからは、1日4コマある作業がシステムに記録されているので、前のコマでどんな作業をしていたか一覧で見ることができ振り返りやすくなりました。それに、前のコマのスタッフのときにはどんな様子だったかを共有しやすくなつたと思います。実際に毎日通つておられる利用者の方も『今モニター画面はわかりやすいです』と言っておられたので、慣れてくればもっと便利になるのかなと思います」と話します。

また、記録作成にも大きな変化がありました。タブレット端末で記録を打ち込めるようになつたので、職業指導員が一度入力すれば他の職員も見られるようになり、追記や修正も可能になりました。「今まで現場にいるスタッフから伝え聞いたことを記録に残していくことが多

かったのですが、実際に関わっているスタッフの方がより具体的でわかりやすい記録を書くことができるのだといいと思います。また、現場のスタッフが書いた記録について後から尋ねると、またさらに詳しく聞かせてくれるので自分が記録を書くときの参考にもなります。利用者の方と面談するときには記録を読み返し、次に活かすことができます」と川田さん。

脇坂さんは、「いろいろな勤務時間で働く職員が全員同じ方向を向いて利用者の支援をしていくには記録を読まない限り、人柄や1日の流れを理解できません。だけど、みんな読み返す時間がなくて、私たちが書いた記録は書きっぱなしみたいなところがありました。それがシステムを入れたことで、少し空いた時間にその場で気になった利用者の記録を読むことができるんですね。気になったことはすぐに確認できるので職員の質の向上につながるし、それがサービスの質の向上や事業所としても向上していくことがあります。



脇坂さん

安全に、明るい気持ちで 働くように

新しい施設は、広く明るい作業スペースで、車庫から一直線で荷物を運べるようになり、作業室から倉庫の状況を職員も利用者も一目でわかるようになりました。

また、毎週金曜日は当番制で利用者と職員が昼食を作る日です。生活訓練として、利用者がメニューを決めて職員が付き添って材料を買いに行き、社会でお金を使うことを体験し、お金の流れを学ぶ機会になっています。これも就労支援の一環であり、施設外での様々な体験も大切にしています。「利用者さんはそれぞれ得手不得手があるので、一人ひとりと毎月面談して達成できうことから段々と目標を上げています。その小さな積み重ねが自信につながって、さらに「がんばろう」という意欲に繋がっていますよね」と施設長の西村一秋（にじむらかずあき）さんは話します。



西村さん



シビックテックラボと運用状況の確認



モニター画面を確認しながら作業

「一番良かったことは、作業分担ができたこと。常勤3人に業務が偏りすぎていたので負担を減らしてあげたいとずっと思っていました。どうしても決まった職員しかできないこともあるし、うまくいかないこともあるけれど、これからは業務をカバーし合える人員配置をしたいなと思っています」と西村さん。

「デジタル化することで、作業効率は上がり、利用者にとってもわかりやすくなりました。その結果、職員の残業が減り、効率化によって生まれた時間と余裕を、利用者へのよりきめ細やかな支援に使うことができるようになりました。難しいと思っていたデジタル化やICTの活用は、今後、福祉分野を支える大きな力になると感じました。

利用者も職員も安全に作業ができる、明るい気持ちで過ごせる職場となるよう、これからも職員同士また、利用者と職員のコミュニケーションを重ねながらせせらぎの取り組みは続きます。

社会福祉法人せせらぎ会
せせらぎハウス黒部
住所：黒部市岡208
TEL：0765-52-4855

詳しくはこちら

効率化のその先

「一番良かったことは、作業分担ができたこと。